

2025年度地域活性化論実施報告（ホームページ掲載）

科目名	地域活性化論B実習	教員名	藤木千草
実習先	株式会社地域法人無茶々園（愛媛県西予市明浜狩浜2-1350）		
実習期間	2026年2月9日（月）～13日（金）		
テーマ	まちづくりの実践現場を体験して地域課題への取り組みに対する視野・知見を広げる		

目的（実習のねらい）

50年前から柑橘類の有機栽培に取り組んでいる無茶々園は、農業だけでなく環境に配慮した真珠やちりめんなど海産物の生産、高齢者福祉、外国人実習生の人材育成、子どもの教育なども幅広く手がけ、都市の消費者との交流も積み重ね、この地域に魅力を感じた若者が数多く移り住むようになっている。その現場を訪問することで、まちづくりの本質や必要な要素を体感して学ぶ。また、授業中に考案してきた自分の身近な課題解決のための事業プランを充実させる。

実習報告

1日目 2月9日

12時にJR松山駅に集合し、特急で卯之町へ。

14:00～15:00 皆田選果場

無茶々園の柑橘類の選果や出荷を行う拠点を視察



無茶々園（廃校を利用した「かりえ笑学校」内）へ移動。

15:30 オリエンテーション

無茶々園の概要説明をうける。

実習中に考えるテーマは「あけはま～れ（宿泊施設）の活性化」と「空き家空き地の利活用」の2つとし、チームに分かれて検討することとした。



「あけはま～れ」へ移動

18:30 夕食後、ログハウスに宿泊

2日目 2月10日

8:45「あけはまーれ」出発

9:00～13:00

狩江地域づくり活動センターで「かりとりもさくの会」の説明後、さかな捌きと巻き寿司づくりの実習。郷土料理で昼食



13:00～14:30

狩江地域おこし協力隊の方とワーケーションワークショップで交流



14:30～15:30

株式会社百笑一輝（ひゃくしょういっき）の福祉施設（デイサービス・有料老人ホーム）「めぐみの里」と「海里（みさと）」を見学



15:30～17:30

買い物・懇親会準備手伝い

18:30～21:00

無茶々園事務所にて懇親会 ホームステイや見学でお世話になる皆さんと懇談



3日目 2月11日

8:45「あけはまーれ」出発

9:00～18:00

石積み修繕の説明と体験



18:00

民泊先農家へ移動

民泊1 齋藤家（男子3人）・民泊2 亀井家（男子2人）・民泊3 片山家（女子3人）

4日目 2月12日

9:00～12:00

宿泊先の農家の畑などで農業実習



12:00～13:00

かりえ笑学校で昼食（弁当）

13:00～16:00

漁業関係の視察

- ・株式会社佐藤真珠で真珠や青のりの養殖についてお話を聞く。
- ・海産物加工の祇園丸の漁船に乗って狩浜漁港内をまわり、海から見える地域の状況を確認後、工場を見学し「ちりめん」の説明を受けた。



16:30～21:00

「あけはまーれ」で、地域課題に関する話し合い・夕食

5日目 2月13日

8:45「あけはまーれ」出発

9:00～11:00

「かりえ笑学校」にて「あけはまーれ（宿泊施設）の活性化」プランと「空き家空き地の利活用」プランのまとめと発表準備

11:00～12:00 発表会



JR 卯之町駅に移動し 13 時終了

成果（学生のレポートより）

・特に印象に残ったのは、高齢者福祉施設の見学である。日本における子育て支援や、子どもを持つ若者世代の働き方改革について学んだ。女性が安心して働けるよう、職場環境にさまざまな配慮がなされており、そのような取り組みは、現代社会における女性の活躍やキャリア形成にとって非常に意義深いものであると感じた。また、高齢者一人ひとりの要望に配慮し、機械浴槽などの設備を導入することで、利用者の尊厳を守りながら最期までその人らしく生活できる環境が整えられている点にも強い感銘を受けた。

・狩江地区を訪れて、豊かな自然や祭りや石垣などの伝統文化、人の温かさなど、さまざまな魅力があることを知り、実際に感じる事ができた。しかしその一方で、化学肥料や添加物の問題、地球温暖化などの気候変動の問題、少子高齢化の問題など、地域が抱える課題も明らかになった。行政任せにせず、住民自らが当事者意識を持って地域活性化の方策を考え、実際に人口減少のペースを緩やかにするという成果を出していることに深い感銘を受けた。

・最も大きく学んだことは、地域社会の基盤は結局「人」と「縁」から生まれるということである。もさくの会、石積み、農業実習、漁業見学などは人生での初めての経験で印象的だった。実習の全ての過程が人と人とのつながりの中で行われていると実感した。

・仲間と協働する中で自分の価値観を見つめなおす機会となり、地域にかかわる上で自分は何ができるのか考える機会となった。地域活性化には多角的な産業展開と人とのつながりを基盤とした持続可能な仕組みづくりが重要であると学んだ。

学生の向上度（学生のレポートより）

・第1次産業の現場における「生産」から「生活」、そして「コミュニティ」までの循環を肌で感じることができた。「地域活性化」を多角的に捉え、机上の空論になりがちだった「公共経営」や「地域課題」が手触りのあるリアリティとして自分の中に落ちてきた。

・普通に消費活動を行うのではなく、持続可能な経営、地球環境にやさしい生産をすることが、これからの地球の未来のために必要であることを知った。今後社会に出ていく中で、企業選びや進路選択といった大きなことから、身近な食品や日用品といった小さなところまで、しっかりと自分の考えをもって選択していくための足掛かりをたくさん得られたと感じる。授業内だけでなく、きっと将来に生きる場面が出てくると感じた実習だった。

・実習を通じて、社会人の先輩方と話し合い、新たな自分を見つけるチャンスであると実感した。これからの人生には多様な生き方や選択肢があるので、自分の考えを実際に行動に移し、最初の一歩を踏み出すことがとても重要であると思った。これまで自分がやってきたことを常に振り返りながら、足りない部分を改善することで、より健全な人格を形成できると感じた。

・地域活性化とは、日々の生活を支える仕組みづくりそのものであり、住民の思いと連携、継続的な努力によって実現されるものだと感じることができた。

・実習での経験を通じて、短い縁や出会いであっても人生に大きな影響を与えることができると感じ、縁の重要性について深く考えるようになった。実習でのさまざまな活動は、私の人間関係に対

する態度を振り返る貴重な機会となった。

・地域活性化とは「弱点をなくすこと」以上に「強みを尖らせること」が重要だと感じた。実習を通して地域を見る視点が変わった。理論で学んだ地域活性化を現場から捉えなおす貴重な経験となった。

講座の難易度

4泊5日、毎日現地の多くの方々のご指導とご協力のもと、学生たちは、農業・漁業・福祉、そしてまちづくり全体について、現場での様々な作業などを通じて学ぶことができた。体力的にきつい部分もあったようだが、働くことの厳しさを実感する機会となった。また、現地の活性化につながる「あけはま〜れ（宿泊施設）の活性化」プランと「空き家空き地の利活用」プランを5日間の間にグループで考えて発表するという作業は、検討の時間が少なかったこともあり苦慮していたが、チーム内で役割分担し、前向きに取り組んでいた。

「あけはま〜れ（宿泊施設）の活性化」では1年を通して楽しめて訪れたいくなるアイデアとして「サウナ」「グランピングキャンプ」「ドライビングシアター」を提案した。「空き家空き地の利活用」プランでは、「所有権を守り、文化を尊重し、金銭リスクを制度化」するために地域法人を設立し管理することを提案した。現地の皆さんには、「難しいテーマによく取り組んでくれた」「面白いアイデアだが、いずれにしても働く人の確保が課題になる」などの意見をいただいた。

藤木千草 兼任講師